あまいせ便り

天草地域医療センター広報誌

2015. May
vol. 6

【編集・発行】
天草地域
医療センター
新聞広報委員会



今年も華やかに医療センターの春を彩ってくれました。

基本理念

一、私たちは“地域医療支援病院“として、医師会会員ならびに各医療機関との医療連携をもとに、高い医療レベルを堅持、地域医療の向上に貢献します

二、私たちは患者の立場を尊重し、その信頼と期待に応え、誠実に”心ある医療“を心がけます

三、私たちは、変革する医療情勢に対処しながら、地域住民の福祉・保健医療サービスの確立に努め、医療センター内外に積極的に活動します

四、私たちは、職員としての”誇りと責任“を自覚し、つねに自己研鑽を重ね、互いに協力して、医療センターの発展に努めます

医の心

患者さんの悩み、苦しみ、痛みに共感する心

患者さんに慰めの手、いたわりの手が自然に出る心

患者さんのために尽くす心

患者さんに真実を伝えて納得同意を得るように努める心

外来診療一覧表

平成27年4月現在

		診療科目	月	火	水	木	金	受付時間
一般外来		脳神経外科	植村・等			植村・等		7:30～11:30 ※急患については24時間対応
		外　　科		原田・吉仲・高田			原田・吉仲・高田	
		整形外科	大江・堀内		堀内・前川		大江・山田	
		循環器科	境野		境野・中村		境野	
		消化器内科			坂井	平岡・杉原		
		代謝内科	平島		古賀	平島		
		放射線科		横山				
		泌尿器科	松永	脊川				
		呼吸器内科		横山		横山		
	小児科外来	小　児　科	塵岡 柳邊	塵岡 宮下	宮下 塵岡	柳邊	塵岡 宮下	8:00～11:30 13:45～16:00 ※急患については24時間対応
特殊外来		呼吸器内科	毎週　金曜日［9:00～15:00］					8:00～11:30 予約制
		神経内科	月　4　回　土曜日					
		リウマチ膠原病科	月1～2回　土曜日					
		消化器内科	月　2　回　土曜日					
		パーキンソン外来	月　1　回　土曜日（再診のみ）後藤					

当センターへのご案内図



一般社団法人　天草郡市医師会立

天草地域医療センター

院長　原田 和則

〒863-0046 熊本県天草市亀場町食場854番地1

TEL 0969-24-4111（代表）

FAX 0969-23-4086　URL http://www.amed.jp

ごあいさつ

「天竺のツツジ」

院　長　原田　和則



風にそよぐ木々の緑も少しまぶしい時期になってきました。先日、春の陽気にチャリダー心が刺戟されまして、天草下島で最高峰となる天竺(標高538m)に自転車(ロードバイク)でヒルクライムしてみました。半河内方面から県道都呂々宮地岳線に入って、猪対策の電気柵を横目にしながらペダルを漕いでいきます。途中山頂近くからは未舗装の小径となっていてやっとの思いで山頂に着くと、山頂からは遠く八代方面や長崎の野母崎を望むことができました。もっと天気が良いと阿蘇の噴煙も確認できるとのことです。近くには天竺の伏流水が流れる「天の川」があって、歯痛の願掛けとしても霊験灼かだそうです。

この場所は23年前に天草に赴任してから４回ほど訪ねました。最初はただの平たい尾根の一部のような山頂だったのですが、訪れる度に周囲の雑木が伐採され、ツツジやミヤマキリシマの群落がどんどん増えてきており、今回はちょうど満開の時期で、山頂一帯はまさに花の絨毯のようでした。地区の方にお話を伺うと、麓の住民、地域おこしグループ「みどりの会」など有志の方々で毎年毎年少しずつ植栽し続けて現在では2,000本を越える山頂公園のような群落になっているとのことでした。

少子高齢化時代の高齢者医療には、在宅医療の充実、地域全体で支える、いわゆる地域包括ケアシステムの構築が必須とされます。天草医療圏は昭和20年代24万人の人口が12万人と半減し、高齢化率35%、天草市では高齢独居率6割、夫婦のみ37%、3人以上は僅か2%、介護認定は高齢者の20%を占めるといった超高齢社会です。天草でも行政、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護、福祉関係など多職種の方々で、在宅医療(療養)体制の組織づくりに積極的に取り組んでいます。多職種で構成される「天草在宅医療プロジェクト会議」では、皆が意見を出し合い少しずつ具体的な対応も始まってきております。当医療センターとしましても「天草地域在宅医療連携室」を設置し在宅退院支援コーディネーターを配置して、これら在宅に関する多職種間の連携をしっかりとコーディネート出来るように取り組んでおります。

地域包括ケアシステムには「自助・互助・共助・公助」が必要と言われます。都会では地域における人と人との関係がますます希薄になり、独居老人問題など地域の支え合いの機能低下から介護や福祉の分野での深刻な影響、互助の問題が危惧されています。天草医療圏も同様でしょうが、冒頭に紹介しました天竺の地域おこしのように天草にはまだまだ地域の方々の繋がりや地域社会のあたたかさを感じます。医療センターの外来にも、近所の方の自家用車のお世話を受けて通院してこられる患者さんが多くいらっしゃいます。高齢者自身が自立した生活を送るための自助努力はもちろん必要ですが、地域の支え合いや助け合いの互助の風土を肌で感じています。このような土壌の助けをお借りしながら、しっかりとした医療介護サービスの提供体制(共助)、行政による公助などにより、他の地域のモデルとなるような地域包括ケアシステムを構築していかねばと気持ちを新たにしているところです。まだまだ道半ばというより、緒に就いたばかりですが、医療や介護が必要となっても、高齢者が住み慣れた地域で安心した生活が継続できるように、さらなる信念と努力が必要のようです。

天草地域包括ケアシステムの構築



天草郡市医師会会長　酒井　一守

我が国は諸外国と比べ少子高齢化が進み、高齢化率は2025年、2042年には後期高齢者もピークを迎えると言われている。このようななか高齢者のADL低下や認知症等の増加により医療や介護サービスの増加が予測される

厚労省は、高齢化率のピークを迎える2025年をめどに高齢者の尊厳の保持と自立支援を目的とし、子供より老人まで住み慣れた地域で人生の最後まで自分らしい暮らしを続けられるよう必要とされる医療・介護サービスが切れ目なく提供される体制の構築を推進している。これが「地域包括ケアシステム」の姿である(図1参照)。



図１

昭和40年代、広島県御調町(公立みつぎ総合病院)において「作られた寝たきり」を減らす為に、保険制度上はなかった「訪問介護・訪問リハビリ」を行い、行政の協力及び地域住民のボランティアによる支え合い活動等により寝たきりが減少した。これが地域包括ケアの始まりである。平成2年の寝たきりゼロ作戦を経て2000年(平成12年)介護保険制度の導入、2005年(平成17年)制度改革による介護予防、地域包括支援センターが創制され2011年(平成23年)地域包括ケアシステムの構築が示された。

地域包括ケアシステム構築には、自助・互助・共助・公助の基盤のもと、「住まい」、「生活支援」、「医療」、「介護」、「予防」 の連携による、５要素が適切に組み合わされて、入院、退院、在宅復帰まで切れ目なく提供されるシステム作りが目標である(図1参照)。重度の要介護状態になっても住み慣れた地域で人生の最後を迎えることができるケアシステム作りには、地域医療連携室、地域包括支援センター、訪問介護センターや介護保険に位置づけられる在宅医療・介護連携事業等が協力し連携することが重要である。

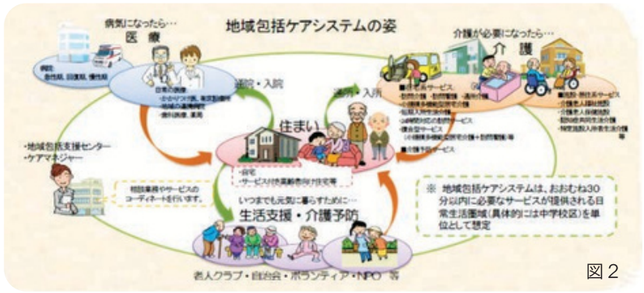


図２

地域包括ケアシステムでの在宅医療・介護は重要な位置を占め、地域医療構想の中でも入院より在宅復帰の推測が計られて居り、在宅への復帰は在宅医療・介護とも密接な関係がある。在宅医療には図２に示すように、在宅に対する本人家族の心構え・生活支援福祉サービスの基盤の上に「医療・看護」、「介護・リハビリ」、「保健・予防」の連携が必要であり、更に行政や地域住民の協議が必要である。

天草地域においては、医師会内の「在宅医療検討会」、行政を含めた関係多職種による「天草在宅医療プロジェクト会議」において在宅医療介護の推進へ向けて検討中である。天草地域は広域であり各地域(生活圏)での医療・介護等の課題を抽出し検討し天草地域に合った、包括ケアシステムを連携しなければならない。

健診で発見した胃がんについて

天草地域健診センター長　谷村　正憲

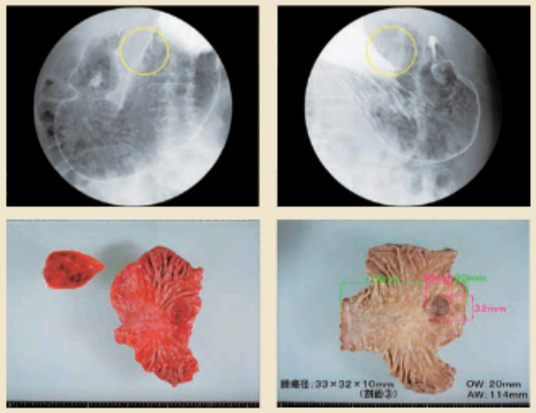
健診の大きな役割としてがんの早期発見があり、年度毎に発見数やその詳細を調査している。今回、平成23～25年度に実施した胃がん検診の直近3年間について分析を試みた。
胃がん検診は3年間で18,243件（透視：9,602件、内視鏡：8,641件）を実施し、胃がんの発見が18名（透視：3名、内視鏡：15名）あった。このうち早期がんが13名（透視：1名、内視鏡：12名）、進行がんが5名（透視：2名、内視鏡：3名）あり、検診受診歴は初回の者が4名で、14名は3年以内に受診歴があった。初回の4名については早期がんが2名、進行がんが2名、3年以内に受診歴があった14名については早期がんが10名、進行がんが4名であった。（消化器がん集団検診学会では過去３年以前の受診歴は初回としている）

これらの結果から内視鏡検査の方が透視検査に比べ癌発見率が高いこと、受診歴の多い者は初回の者に比べ早期癌である割合が高いことがわかる。なお進行がんの5名中、4名が開腹手術、1名が腹腔鏡手術を受けており、早期がんの13名は9名が内視鏡治療（ＥＳＤ）、3名が開腹手術、1名が腹腔鏡手術を受けている。

症例１

検診にて透視検査実施
診断：Tubular adenocarcinoma,
moderately differentiated,
Type2, 33×32mm, tub2>>pur1,
PT2(MP)
胃切除術施行

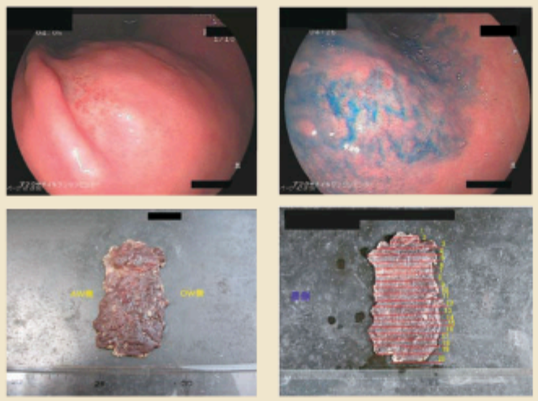
胃体中部小弯に進行がんが発見され胃切除が行われた。



症例２

検診にて内視鏡検査実施
診断：adenocarcinoma, sig～por,
Type０-Ⅱc, PT1(M)
内視鏡治療（ESD）施行

内視鏡検査時に胃体下部前壁にわずかな褪色を認め、生検にてGroupⅤ(sig)の診断。天草地域医療センターにて内視鏡検査施行。ＮＢＩにて病巣の範囲を決定する事ができ、signet ring cell carcinoma であるにもかかわらず内視鏡治療（ＥＳＤ）にて根治できた。



●胃癌検診の推移

検診時検査法	平成25年度			平成24年度			平成23年度		
	受診者	精査対象	がん発見数	受診者	精査対象	がん発見数	受診者	精査対象	がん発見数
透　視	3,276	291	2	3,144	294	0	3,182	368	1
内視鏡	2,851	182	3	2,861	229	10	2,929	259	2

まとめ

胃がん検診において当センターでは内視鏡検査が透視検査に比べ胃がん発見率が高く、特に早期癌の発見率が高い。それゆえESDにて根治する率が高く、開腹手術にいたらないですむ例が多くなっている。内視鏡による胃がん検診は胃がん罹患患者のQOL向上に大いに役立っていると考えられる。
問題点として内視鏡検査は医師のマンパワーが必要であり、内視鏡医師の確保が必要である。

呼吸器内科常勤診療開始！

呼吸器内科医長　横山　晃子
（平成19年卒）

平成27年4月より常勤医師1名による診療を開始致しました。平成25年7月より毎週金曜日に済生会熊本病院呼吸器センターの先生方による呼吸器外来を行っていただいており、今後もご協力いただきながら診療を進めていきたいと思います。
外来診療は毎週火曜・木曜日、原則午前11時30分までですが、急患はこの限りではありません。対象となる疾患としては

① 肺炎・非結核性抗酸菌症・肺真菌症などの呼吸器感染症
② 気管支喘息
③ 慢性閉塞性肺疾患
④ 間質性肺炎
⑤ 急性・慢性呼吸不全　…などを中心に診療を行っています。

肺癌に関しては、週1回の気管支鏡検査およびCTガイド下肺生検（当院放射線科医師と連携します）による確定診断および病期分類まで行い、手術などの治療に関しては当院外科にお願いする方針としております。入院加療も他科の先生方と連携しながら行っております。
急患に関してもできるだけ対応させて頂きたいと存じますが、子育てと両立しながらの勤務のため平日午前9時から午後5時までの診療とさせていただいております。大変申し訳ありませんが、ご紹介のご連絡は可能な限り午前中にお願いいただけると助かります。
天草地域の呼吸器疾患の患者様の治療に少しでも貢献できるよう努力いたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。

今年度から勤務しております。出産・育児休業のため休職しておりましたが、この度復帰することとなりました。１人診療科で子育てと両立しながらの診療となり、何かとご不便をおかけするかと思いますが、各科の先生にご協力をいただきながら天草の地域医療に貢献していきたいと思います。よろしくお願い致します。



横山　晃子 医長

お世話になりました



放射線科部長　中浦　猛

天草地域医療センターには６年という長い期間お世話になりました。３テスラMRI、２５６列CTなど最新の機器を使用し、読影、治療に携わることができたのは大変貴重な経験になり、多数の研究を行う事も出来ました。特に低電圧CTや逐次近似再構成法については当院でのプロトコールが全国で参考にされるようになっています。私は４月からは熊本大学病院に勤務することとなりますが、天草での経験を生かしてがんばろうと思います。また、新しい吉田部長のもと天草地域医療センターの放射線科がますます発展することを願っています。大変貴重な６年間を有り難うございました。



放射線科医師　猪山　裕治

１年９ヶ月という短い期間でしたが、天草地域医療センターの皆様、本当にありがとうございました。
振り返ってみますと、天草地域医療センターで、今日までなんとかやってこられたのは、皆様のご協力のおかげと、深く感謝しております。４月からは、熊本中央病院の方で勤務することになりますが、これまで天草地域医療センターで学んだことを糧に、医療業務に従事する所存です。本当にこれまでありがとうございました。



外科医師　江藤　二男

１年間大変お世話になりました。各診療科の先生方、地域の先生方、コメディカルの皆様のおかげで非常に有意義な１年間を過ごすことができました。これからの診療においても自分の糧となっていくと確信しております。
天草地域医療センターをはじめ、天草地域の医療がますます充実していくことをお祈り申し上げます。１年間本当にありがとうございました。



外科医師　山尾　宣暢

朝に手術に入り、そして夕方には透視や内視鏡の検査をする。このような流れで１日が過ぎ去り、そして、１週間、１ヶ月とまさに光陰矢の如しといったところでした。一つ一つの経験が自分にとっては新鮮であり、喜びでありました。ここ天草で外科医としてのスタートを切り、このような恵まれた環境の中で働くことができたことに本当に感謝しております。４月からは熊本医療センターでの勤務となりますが、またどこかで皆様とお会いできる日を祈っております。１年間本当にありがとうございました。



麻酔科部長　田口　裕之

麻酔科部長として２年間努めさせて頂きました。常勤、私１名のなか、日勤は大学応援医師の力を借りて、また週末待機も大学や熊本大学麻酔科同門先生方のお力添えにより24時間麻酔科待機体制の維持を堅持させて頂きました。おかげで。わたしが赴任した後は、手術症例数は増加の一途をたどることが出来ました。今年度は以前の麻酔科医の常勤３名体制での最高手術症例数を上回ることが出来そうです。そして麻酔説明書を術前に患者さんに配布し、また可能な限り術前に患者さんだけで無く、患者さんの家族に麻酔の説明を言葉で話すことに努め、術後もなるだけ翌日早朝に患者さんの診察をさせて頂き、呼吸循環系を中心とした合併症の早期発見に努力させて頂きました。しかしペインクリニックや集中治療などの以前の麻酔科が関与していた分野の診療が出来ませんでした。現在手術麻酔に特化して診療させて頂いている分、各科先生や天草医師会の諸先生にご負担をかけたことは恐縮に思います。私一人で出来る仕事は限られていましたが、手術室スタッフの皆ならびに関係各所の先生方などの協力のもとに何とか責務を全うすることが出来そうです。ありがとうございました。



小児科医師　石津　良子

この場をお借りして、まずお世話になった天草の皆様に御礼申し上げます。不慣れな全館当直では各科先生方に、小児の入院部屋がなくなっては医師会の先生方にとあちこちでご迷惑をお掛けしましたが、医師として貴重な体験を多くさせて頂きました。自分の今後の進路について考えるとても良い機会となりました。次回赴任の際はもっと天草の医療に貢献できるよう研鑽を積みたいと考えています。本当に３年間ありがとうございました。



脳神経外科医師
伊東山　剛
平成26年4月～平成27年3月

よろしくお願いします



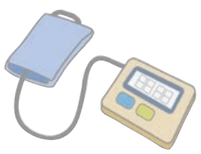
放射線科部長　吉田　守克（平成16年卒）

本年４月より赴任しました。天草は初めてで右も左も解らず、不安な気持ちでやってきましたが、皆様に優しく接して頂き、充実した毎日を過ごしております。こちらに赴任する前は、熊大病院にて核医学診断を中心とした画像診断に携わっておりました。ここには大学病院を凌ぐCT、MRIの最新鋭装置があり、IVRに対する需要も多いため、不安でありましたが、優秀な放射線技師の皆様の助けを借りて、何とか日常診療をこなしております。今後は、天草の皆様がより良い医療を受ける事ができる様に、画像診断、IVRに努力していきたいと思いますので、宜しくお願い致します。



麻酔科部長　寺崎　秀平（平成18年卒）

４月より麻酔科に異動してきました。地域医療センターは５年ぶり、２回目の勤務となります。前回は忙しく大変な１年ではありましたが、それ以上に働きやすく居心地よい土地であったため戻ってきました。まだまだ未熟な部分も多いですが、天草地域の医療に貢献できるように努力していきたいと思います。



外科医師　坂田　和也（平成19年卒）

４月より外科で勤務することとなりました。天草では腹腔鏡手術が数多く行われており、また以前勤務したことがある医師からの評判がとても良かったので希望して赴任することとなりました。腹腔鏡手術を習得し、低侵襲手術を提供できるように頑張りたいと存じます。海の香り、魚釣り、大自然が大好きなので天草で生活できることをとても嬉しく思っています。まだまだ未熟者ですが、頼りにされる医師になれるように日々邁進していきたいと考えています。何卒宜しくお願い致します。



小児科医師　柳邊　秀一（平成22年卒）

今年度から小児科で勤務することになりました。平成２４年に熊本大学小児科に入局し、熊本市内の病院ならびに延岡病院に勤務してきました。天草は祖母の暮らしている馴染みのある土地であり、美味しい料理と観光スポットを巡り、人に紹介できるぐらい天草を知りたいと思います。赴任したてで不慣れではありますが、少しでも天草の小児医療に貢献出来るように精進していきたいと思います。よろしくお願いします。

小児科医師　宮下　雄輔（平成23年卒）

今年の1月から勤務しております。平成23年熊本大学を卒業し、研修2年間を経て熊大小児科に入局し、その後熊本労災病院ー熊本大学医学部附属病院ー熊本赤十字病院に勤務しておりました。今年の9月までの勤務と決定しており、非常に短い期間ではありますが精一杯この地域の小児科医療に貢献したいと思っている次第です。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。



脳神経外科医師　森川　裕介（平成23年卒）

４月より天草地域医療センターで勤務をさせて頂いております。出身は熊本の合志市であり、中学、高校では長崎で暮らし、それから熊本大学医学部を卒業いたしました。初期研修では人吉総合医療センターに勤務し、昨年まで熊本大学医学部附属病院に勤務していた次第です。天草で勤務するのは初めてですので御迷惑をおかけすることもあると思いますが精一杯頑張りますので宜しくお願いします。



外科医師　大徳　暢哉（平成24年卒）

今年度から勤務することとなりました。鹿児島で生まれ育ち、熊本中央病院での初期研修後、熊本大学消化器外科に入局し、昨年は大学病院に勤務していました。医師として４年目、外科医として２年目になります。まだまだ未熟ですが、天草の医療に貢献できるよう一生懸命努力し日々精進していきたいと思います。何かとご迷惑をおかけすると思いますがよろしくお願いいたします。



放射線科医師　井上　泰平（平成24年卒）

はじめまして、今年度から放射線科で勤務することとなりました。医師として４年目となりますが、まだまだ未熟なところが多く先輩医師や周りのスタッフ方にご指導頂きながら日々精進していきたいと思います。天草地域医療センターの放射線部には最先端の機器が導入されておりCT、MRIを始め多くの診断材料を得ることができます。機械のスペックに負けないように自分のスペックも上げながら地域医療に貢献していけるよう頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

検査室



臨床検査技師　平井　絢子

熊本市内出身で、天草市に住むのは初めてです。毎日の生活と仕事には、まだ不慣れな点も多く大変ですが、何事にもチャレンジして頑張っていきたいと思います。

放射線科



放射線技師　稲田　発揮

地元で働きたいと思い、天草に帰って来ました。放射線技師としては今年度で３年目になります。未熟な私ですが、一生懸命に頑張ります。よろしくお願いします。

栄養管理部



調理師　斉藤　千里

仕事を始めて間もなく不慣れな事もあり、皆さんに大変ご迷惑をおかけしますが、少しでも地元天草に貢献出来る様、調理師として仕事に励みたいと思います。

看護部



2階病棟　藤本　愛

天草市の本渡出身で、天草市立本渡看護専門学校を出ました。休みの日には散歩をしたり、ドライブに行くことも好きです。これから宜しくお願い致します。



2階病棟　濵元　小雪

本渡看護専門学校を卒業しました。深海町出身です。私は食べる事が好きです。今は不安がたくさんありますが、早く慣れるよう頑張ります。



3階南病棟　関山　類奈

趣味は音楽鑑賞で得意ではありませんが体を動かすことが好きです。これから患者さんを第一に考え、患者さんの気持ちに寄り添えるような看護を提供出来るよう、日々努力していきたいと思います。



3階南病棟　小島　麻美

長崎県出身ですが、今回縁があって天草に引っ越しして来ました。好きな食べ物は卵とチョコレートです。最近バレーボールを買いました。一人前の看護師を目指して一生懸命頑張ります。



3階南病棟　濱洲千亜稀

１年間整形外科病棟におり、今回は循環器メインの病棟ということで、整形とは違った雰囲気で日々新しい知識を吸収しています。早く仕事に慣れてた楽しく仕事をしたいなと思っています。



3階北病棟　北内　紫穂

急性期病棟なので患者さんの入れ替わりが激しく大変だと思いますが、患者さんの話をしっかり聞き、患者さんの気持ちに寄り添える看護をしたいと考えています。よろしくお願いします。



3階北病棟　益田みのり

熊本市内の大学を卒業し、天草に帰って来ました。看護師になる夢を幼い頃から抱き、今回、天草地域医療センターで働く事ができ嬉しく思います。体を動かすことが好きで笑顔で頑張ります。



3階北病棟　泉　昌里

脳神経外科・循環器科を中心とした混合病棟で様々な疾患の患者様がいらっしゃいますが、患者さんの気持ちを汲みとりながら、適切な看護が出来る看護師になれるよう頑張ります。



4階南病棟　寺下亜衣梨

私の出身地は新和町です。ここ天草地域医療センターで働けることを嬉しく思います。１日も早く天草の医療に貢献出来るように精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。



4階南病棟　金子　太美

地元である天草の地域医療に貢献できるよう、諸先輩方のご指導を受けながら、患者さん１人１人に丁寧な看護を行える看護師を目指して努力してまいります。



4階北病棟　木村　美波

どんな時も笑顔を忘れず、患者様や御家族の方を尊重する態度で看護を行っていきたいと思います。よろしくお願いします。



4階北病棟　江口　幸吾

地元は天草で、地元で働けることを大変嬉しく思います。御迷惑をかけることも多いと思いますが、しっかり頑張ります。よろしくお願いします。

黒川温泉女子会！　放射線技師　泉 あかり



院内旅行で黒川温泉に３月２０、２１日の１泊２日の日程で行ってきました。今回はすべて女子メンバー、３歳男子のゆう君と運転手さんも一緒ですが楽しい女子会です。黒川まではバスの旅ということで、お昼前からビール。みなさんクーラーボックス完備です。

まず、日田豆田町散策。ちょうどおひなまつりの展示がされていて、この地域に伝わる「おきあげ雛」を見ることができました。黒川温泉の宿はやまびこ旅館。みなさん露天風呂、家族風呂など様々なお風呂を楽しまれたようです。犬用温泉もあるそう。私は入らなかったのですが看護師さん達が「立ち湯」の話をされていて入ればよかったと後悔しました。１５０mの深さの温泉で、上に棒が渡されており浮力により懸垂が信じられないほどできるらしいです。あごで体が浮く?!温泉街も白玉っ子という餅屋に２回食べに行き、パティスリー麓という有名なケーキ屋さんでシュークリームを食べお腹いっぱい。

２日目の朝はゆっくり出発で温泉街散策し、阿蘇大観峰から阿蘇ファームランドに寄って天草へ無事帰ってきました。天候にも恵まれ、木村キャプテンと、おもしろイントネーションガイドの井出さん、みんなのアイドルゆう君のおかげで順調で楽しい旅行でした。個人的には普段接しないちびっこことの旅が楽しかったです。いまでも写真を見返しております。かわいー。朝昼晩と美味しいご飯が出てきて、ビールもたくさん飲んで体重３kg増ですが想定内です。

北海道スキー院内旅行　車輌部　田﨑　美孝

平成27年2月25日～28日まで3泊4日の院内旅行北海道スキーに13名が参加しました。行き先はニセコスキー場で、北海道でも雪質が良く国内外からも多くの人々がスキー・スノーボードを楽しむために訪れています。

近年海外からの観光客の数も増え、韓国・中国をはじめ世界中から集まっています。本場の欧州からも「ニセコの雪は良い！」と聞きつけて来日し、終日楽しまれている様です。実際にリフトで一緒に乗った男性はオーストリアの人で１ヶ月近く滞在しているとの事でした。スキー場の周辺は昼夜、外国の人が多く町並みや建物が綺麗で海外にいるような気分になります。勿論、言葉も多種多様でにぎやかでした。



スキーはナイターを含め、－10℃近くの気温の中で、3日間みっちり滑り、日頃使わない筋肉を使い最終日は筋肉痛で動けない状態でした。久しぶりに参加された方も、昔を思い出し楽しく滑れたみたいです。食事も和洋折衷と毎日ご馳走を食べて大満足でした。お陰で激しい運動をしているにもかかわらず、私は3kg近く体重が増えて帰りました。夜は温泉で疲れた体を癒し、アフタースキーは、日中に撮影したビデオを鑑賞しながら会話を楽しみました。今回の旅行で職員同士の融和も図ることができました。また、外国語を話すことができれば様々な国の人達ともコミュニケーションが取れて楽しくなると思いました。

マラソン同好会　消化器内科医師　杉原　一明



風にそよぐ木々の緑もまぶしい季節となりました。
当院のマラソン同好会をご紹介します。職種を問わず走ることが好きな面々が集い、天草管内のマラソン、駅伝大会に出場しています。始めは2、3人からのスタートでしたが、今では10人を超えて出場することもあります。皆さん走り始めたきっかけはダイエットや体力作り、無理やり誘われたからなど様々です。中には当初、走っている人の気がしれない、何が楽しいの、と全くかけ離れたところにいた方もおられました。今となってはすっかりランナーです。

ランニングの楽しいところは練習が如実に結果として現れることです。走れば走るほど大会でのタイムもみるみる縮まり、走れる距離も伸びていきます。それぞれの目標を達成したときの充実感、心地よい疲労感は病み付きになります。打ち上げのビールは格別です。

これから新緑が力強くなりますと日々の練習も益々楽しくなります。特に天草は景色の美しさが群を抜いています。通りから少し小路に入ると雰囲気のよい昔を想い出させる田畑、民家が現れます。菜の花が咲き乱れる道を進み、緩やかな坂を駆け上がると眺望見事な風景が開けます。このような恵まれた環境は全国的にも非常に珍しいのではないでしょうか。毎年春の五橋を走る天草パールラインマラソンが、全国的に大人気なことからも覗えます。走ることはシューズと健康な体さえあれば誰でも始めることができます。天草の地を駆ける足音が益々増えるように、これからもよりたくさんの方々を巻き込んで行きたいと思います。

編集後記

「初心を忘れず」

本日は、ご入学、誠におめでとうございます。

皆さんは、看護師への道を将来の目標に定められ、本校の入学試験を見事に突破されました。これからの三年間は、皆さんの夢を実現するために、とても貴重な時間となります。これまでの学習を基礎として、看護専門職へ向けての勉学に、さらなる情熱を持って、励んでくれることを期待しております。

さてわが国は、医学の進歩を基礎として、世界に例のない国民皆保険制度、予防接種や保健予防教育・啓蒙などの医療政策、医療関係者の献身的な努力などにより、世界に冠たる長寿国になりましたが、社会構造は少子高齢化となり、将来的な国力低下も懸念されています。また、地域の医療現場でも、医師・看護師をはじめ、各医療関係専門職の不足と偏在など、ひっ迫の課題も抱えています。このような現状を踏まえ、わが国では、継続中の、第六次地域医療計画と平行して、将来の人口構造の予測数値を基にして、各医療圏ごとの急性期から在宅医療までの医療供給体制の構想策定と、地域住民が安心して住み続けるために生活圏ごとの「地域包括ケア」システム構築が急がれています。今後、これらの改革を進めていくにあたっても、看護師という専門職の担う役割は今まで以上に大きく、質の高い看護能力とリーダーシップ・行動力は勿論、柔軟性のある社会看護活動も期待されています。

今日から、看護師の勉強を始める皆さんが、三年後に看護師となり、長期的に医療現場で病める人やその家族の信頼を得て、自信を持って働き続けていくには、基本的に、知識・技術・人間性・社会性という、４つのことを、学生時代にしっかり身につけていくことが大切です。これらは一般社会人にも共通することですが、人々の不安、苦痛、悲しみなど、マイナス要素の多い医療現場で働く人々にとっては、とりわけ、重要なことです。看護教育は、疾病や基本看護だけでなく、心理学、法律なども含めた幅広い科目にわたり、また、看護実習スケジュールもタイトな内容になります。技術を技能にまで、高めていくには若いうちに、学校において、その基本をしっかり身につけなければなりません。さらに、良好なコミュニケーションを創ることが、医療の始まりと言えます。患者さんのみならず、同僚スタッフとも良き連携ができ、利己的でなく総合的判断力に優れた、社会性を身につけ、また、人の気持ちを思いやり、弱い立場の人に、目線を同じくして、ごく自然に手を差し伸べ、ためらわずに声をかけることができる、優しい、豊かな人間性も養ってください…。



今回のあまいせ便り６号を発行するにあたって、院内外各所より記事の収集を行っていたところ、偶然、上記の「式辞」に出会いました。この式辞は天草郡市医師会総院長の植村正三郎医師が学校長をしております天草市立本渡看護専門学校の入学式（今年４月）において新入生に送った式辞の一部です。

この式辞の最後に「人の気持ちを思いやり、目線を同じくして、ごく自然に手を差し伸べ、ためらわずに声をかけることができる優しい豊かな人間性も養って下さい…」という一文があります。この一文を読んだ後、医療従事者として、社会人として、今までの自分はどうであっただろう…と深く考えさせられました。今回、この式辞に出会った事により、あらためて今までの自分と向き合う良い機会となったように思えます。

今後も初心を忘れず、今の自分に満足することなく日々努力を積み重ねていきたいと思います。

新聞広報委員　清田　千草